

## 令和5年度大阪府ガンカモ類等鳥類生息調査の結果について

ガンカモ類生息調査（全国ガンカモ一斉調査）は、ガン、カモ、ハクチョウ類の冬期生息状況の把握を目的として、1970年（昭和45年）から毎年1月に実施されています。環境省の呼びかけで全国の都道府県が一斉に実施するもので、今回が55回目の調査となります。今回、大阪府の調査では、カモ類が36,167羽観察されましたが、ガン類・ハクチョウ類は観察されませんでした。

また、カワウ及びオオバンが増減傾向を把握するため、調査の際、これらの鳥の観察も行いました。

### 【大阪府における調査の概要】

- 1 調査年月日 令和6年1月7日～1月21日
- 2 調査地 459地点  
ガンカモ類が生息すると予測される府内の池沼、河川、海岸等
- 3 調査員 延べ682名  
日本野鳥の会大阪支部会員等
- 4 調査方法 各調査地において種別の個体数を目視によりカウント  
双眼鏡、望遠鏡、カメラ、カウンター等を使用

## 5 調査結果

### (1) カモ類

カモ類は、370 地点で 22 種 36,167 羽が観察されました。

総観察数は昨年度から 722 羽（約 2%）の減少となりました。〔図 1〕。

観察数を調査地別にみると、淀川、神崎川、平林貯木場、北港、番田川用水路の順に多く観察されました〔表 1〕。

種別の観察数では、ホシハジロ、ヒドリガモ、キンクロハジロ、コガモ、カルガモの順に多く観察されました〔図 2〕。種別観察数の近年の傾向については〔表 3、図 3、図 4〕にまとめています。

また、環境省が【絶滅の危険が増大している種】（絶滅危惧Ⅱ類）として指定しているツクシガモおよびトモエガモが観察され、【評価するだけの情報が不足している種】（情報不足）として指定しているアカハジロおよびオシドリが観察されました。

ツクシガモは 38 年連続、トモエガモは 20 年連続、オシドリは調査開始以来 54 年連続の観察です。

- ・ ツクシガモは、ヨーロッパやユーラシア大陸中央部に生息し、冬期には東アジアなどへ渡る大型のカモです。日本では、主に九州北部の干潟などに飛来し、近年大阪においても、これらの地域に次いで観察数が多くなっています。
- ・ トモエガモは、冬鳥として本州以南の日本海側に多く渡来し、太平洋側では少なく、年によっては何ヵ所かで数百羽以上の群れが見られます。湖沼、池、河川などに生息しています。
- ・ オシドリは、主に本州中部地方以北で繁殖し、冬は西日本で越冬するものが多いことが知られています。
- ・ アカハジロは、まれな冬鳥として湖沼や池に渡来し、単独でキンクロハジロやホシハジロの群中にいることがあります。

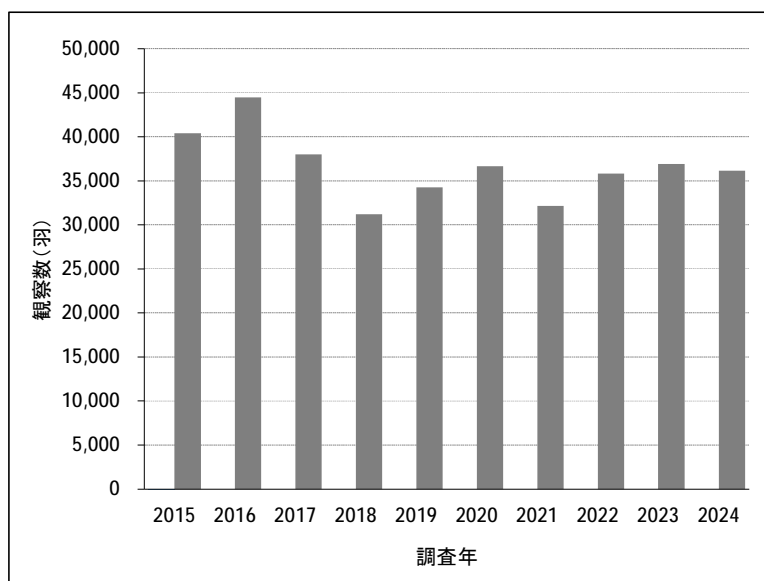


図 1 カモ類の観察数の推移

表1 カモ類の調査地別観察数

調査地点・地域	観察数（羽）
淀川全域	7,993
神崎川全域	1,748
平林貯木場	1,572
北港	1,479
番田用水路	1,198
その他	22,177
合計	36,167

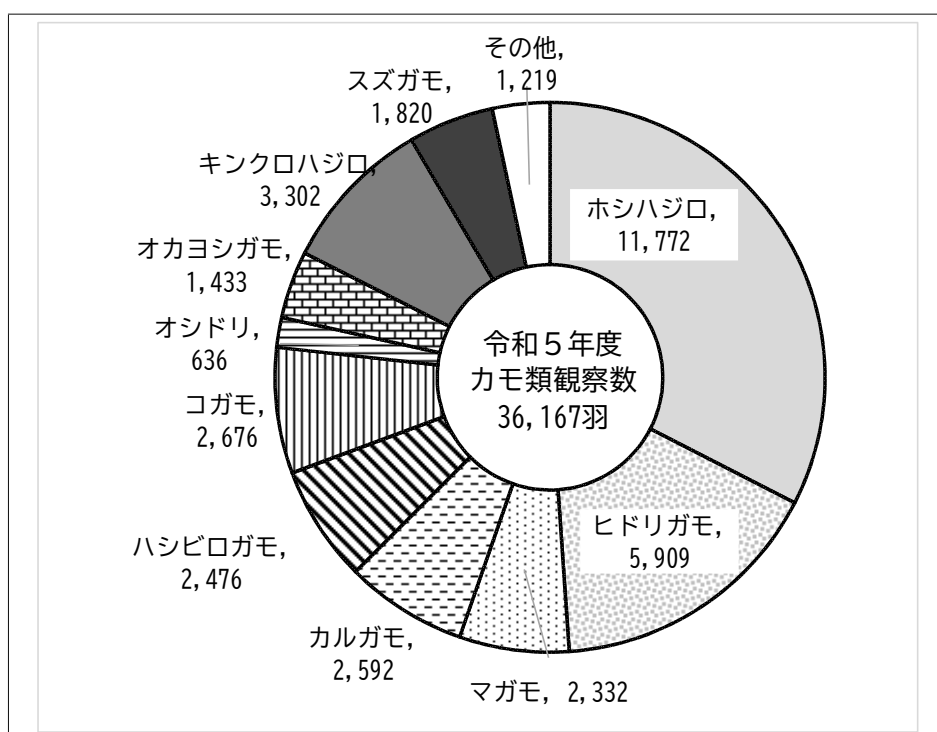


図2 カモ類観察数の種別内訳

表2 カモ類の観察数の近年（5ヶ年）の傾向

種名	傾向	備考
ホシハジロ	安定	府内で最も多く観察されるカモ類。調査年によって変動が大きい。今年度は2020年と同程度まで増加した。
ヒドリガモ	安定	2020年から若干の増減はあるものの、ほぼ安定して6,000羽～7,000羽が観察されている。
マガモ	安定	昨年より減少したが、安定して約2,000羽で推移している。
カルガモ	安定	2020年以降、安定して2,500羽～3,000羽が観察されている。
ハシビロガモ	安定	若干の減少はあるが、安定して2,600～3,000羽で推移している。
コガモ	安定	安定して2,500羽程度で推移している。
オシドリ	安定	昨年と比較すると減少したが、安定して1,000羽程度で推移している。
オカヨシガモ	増加	昨年と比較すると減少したが、2020年以降は安定して1,000羽～2,000羽で推移
キンクロハジロ	安定	2020年以降は安定して3,000羽前後で推移している。
スズガモ	安定	調査年によって変動が大きいですが、2020年以降は安定して2,000羽前後で推移している。

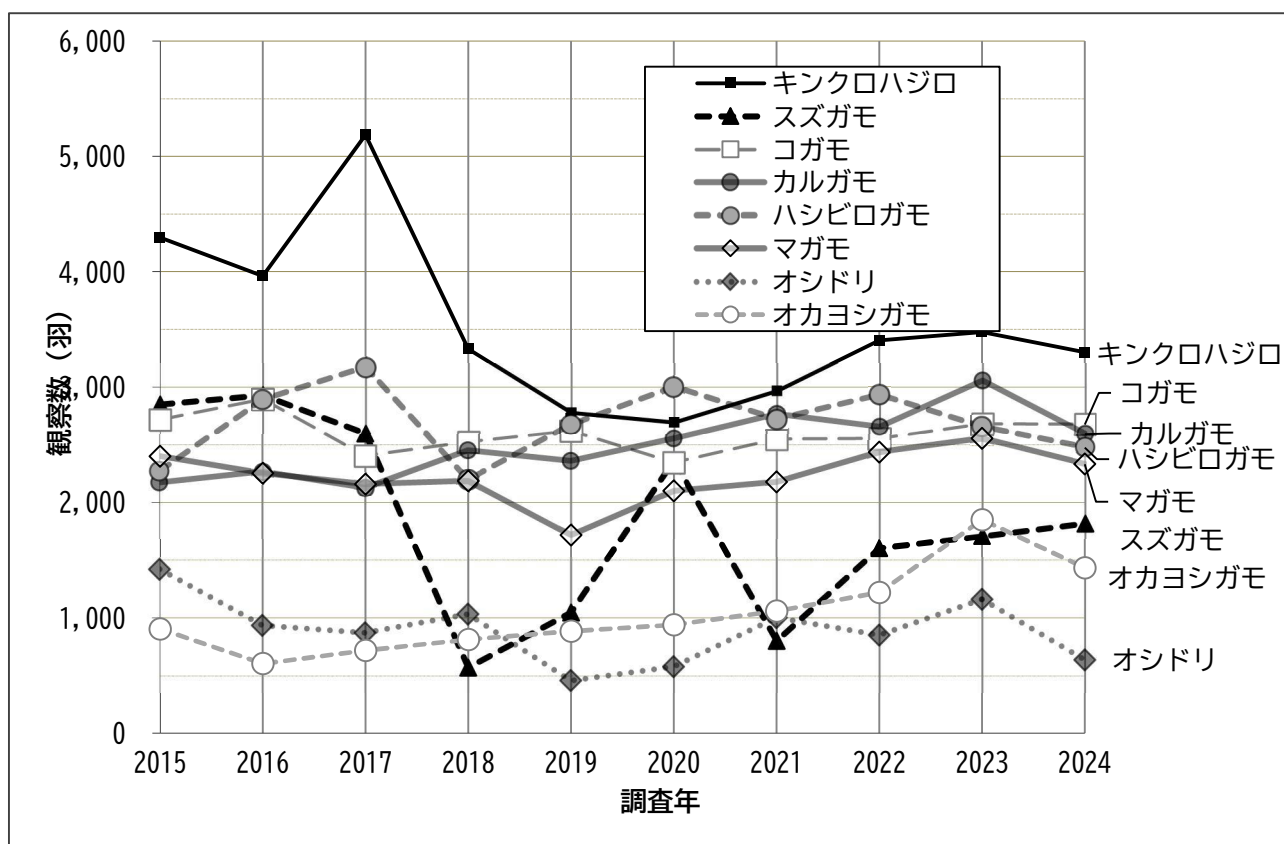


図3 主要カモ類（ホシハジロ、ヒドリガモを除く）の観察数の推移

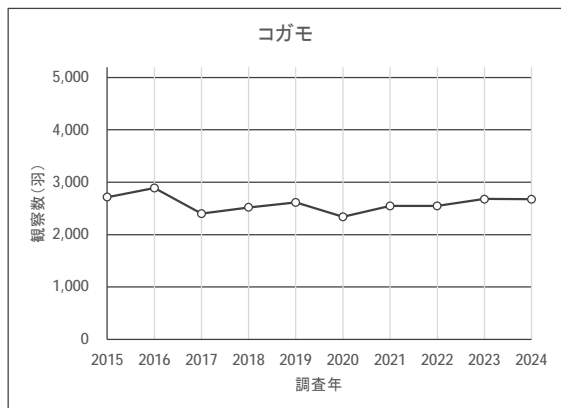
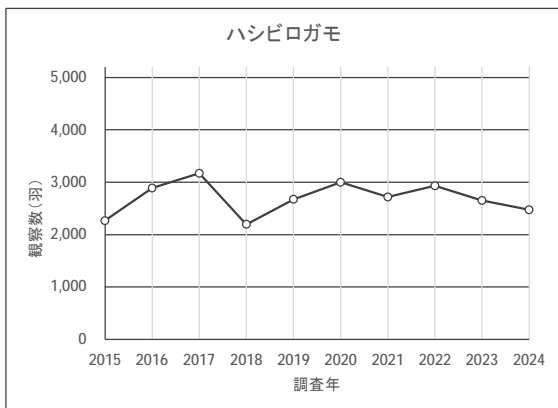
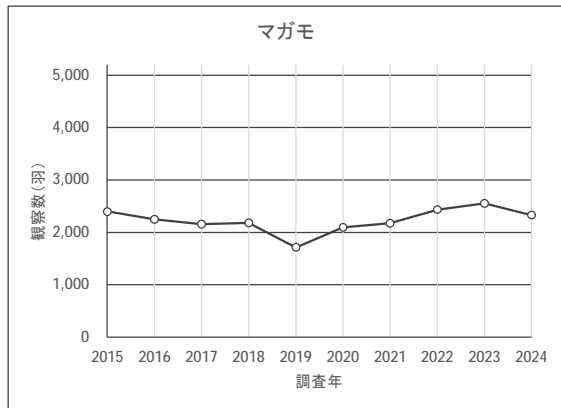
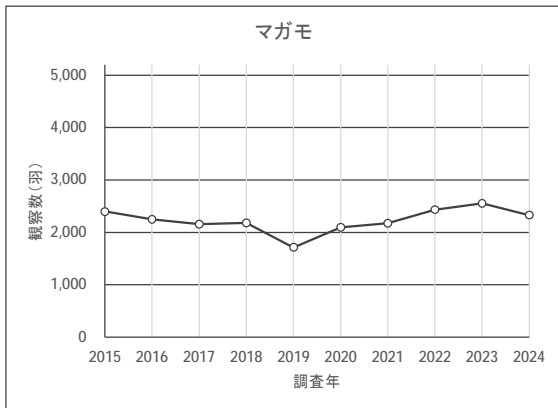
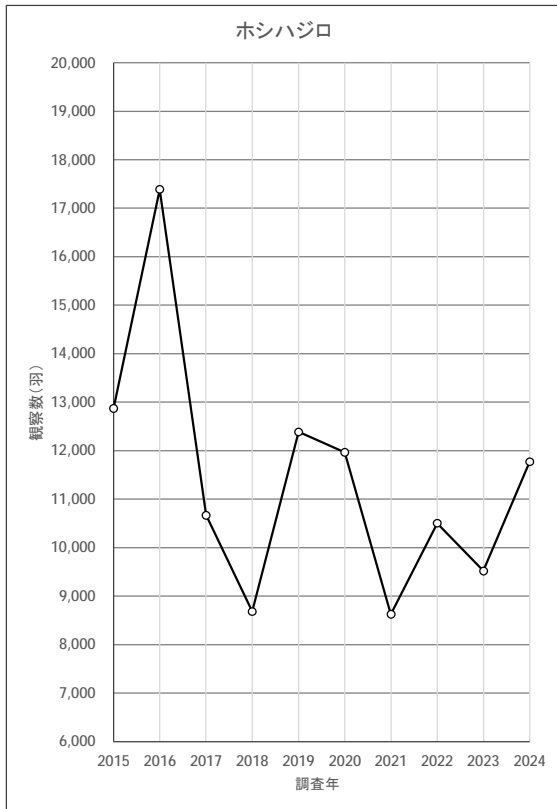


図 4 (1) 主要カモ類の観察数の推移 (種別グラフ)

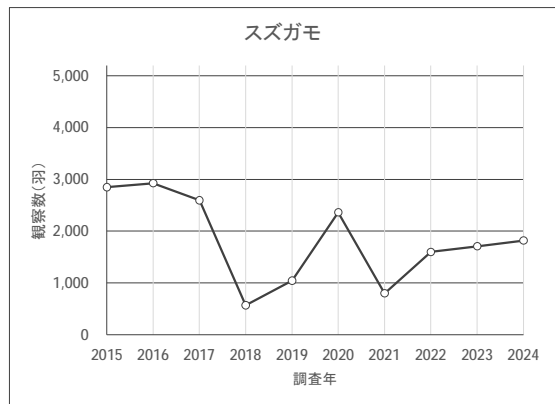
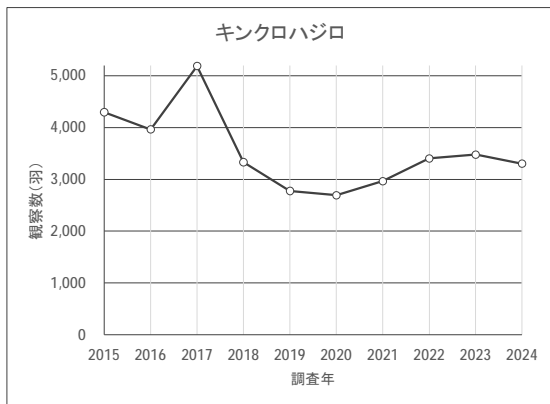
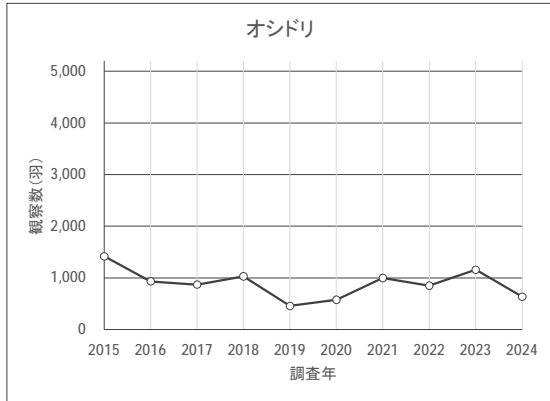


図 4 (2) 主要カモ類の観察数の推移 (種別グラフ)

(2) ハクチョウ類、ガン類

ガン類・ハクチョウ類は観察されませんでした。

## 6 カワウについて

今年は、215 地点で 3,106 羽が観察されました。

2018 年以降、観察数は増減を繰り返しており、今年は昨年より約 2,000 羽減少しました。

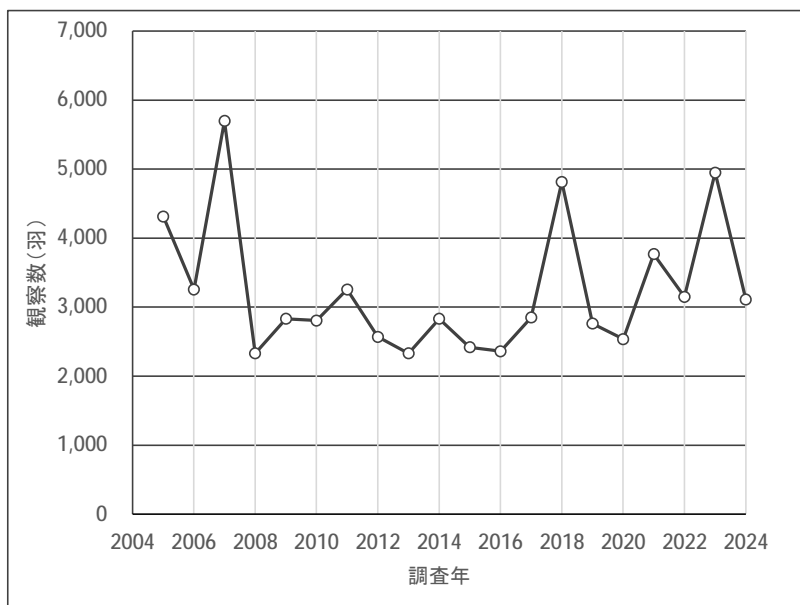


図5 カワウの観察数の推移

## 7 オオバンについて

今年は、183 地点で 2,685 羽が観察されました。

2021 年以降観察数は増加傾向にありましたが、今年は昨年より大きく減少し、2020 年とほぼ同数となりました。

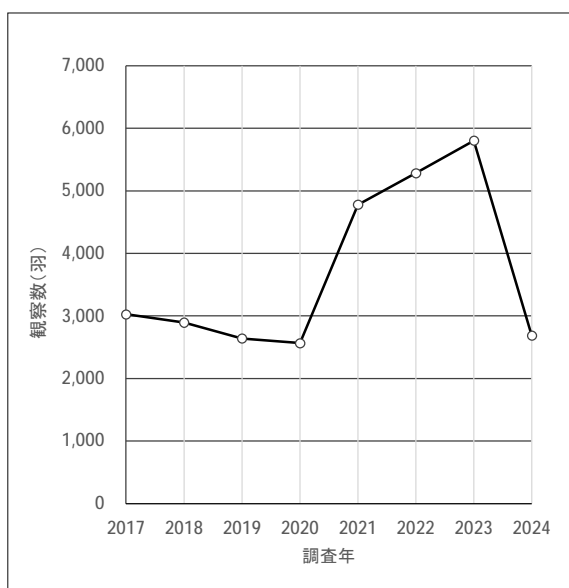


図6 オオバンの観察数の推移